

甲 第 号

岸本美和 学位請求論文

審 查 要 旨

奈 良 県 立 医 科 大 学

論文審査の要旨及び担当者

報告番号	甲 第 号	氏 名	岸本美和
論文審査担当者	委員長	教 授	田中康仁
	委 員	教 授	藤本眞一
	委 員	教 授	今村知明
	(指導教員)		

主論文

Suspected periprosthetic joint infection after total knee arthroplasty under propofol versus sevoflurane anesthesia: a retrospective cohort study.

人工膝関節置換術後の関節周囲感染が疑われる症例の発生頻度は、術中麻酔維持使用薬剤の選択と関連するか（プロポフォールによる全静脈麻酔と、セボフルランでの麻酔維持での比較）：後ろ向きコホート研究

Miwa Kishimoto, Hayato Yamana, Satoki Inoue, Tatsuya Noda, Manabu Akahane, Yusuke Inagaki Hiroki Matsui Hideo Yasunaga, Masahiko Kawaguchi, Tomoaki Imamura.

Canadian Journal of Anesthesia 2018 Aug;65(8):893-900.

論文審査の要旨

人工関節周囲感染(PJI)は、人工膝関節置換術後の重大な合併症である。プロポフォールは全静脈麻酔に用いられるが、脂肪乳剤のため、術後感染のリスクを増幅させる可能性がある。申請者は大規模データを用いて、セボフルランによる吸入麻酔症例と比較することで両者間での PJI 発症の差の有無を検証した。

研究は DPC (Diagnosis Procedure Combination) データベースを用いて、人工膝関節置換術が施行された患者を対象として後ろ向きに行われた。PJI 疑いの代替指標として、術後 30 日以内の関節穿刺の施行もしくはデブリドマンが用いられた。傾向スコアマッチングにより、プロポフォールによる全身静脈麻酔群 (n=5,140) とセボフルランにより吸入麻酔を行った群 (n=5,140) を抽出し、PJI が疑われる症例の発生頻度を比較し、統計学的に検証したところ、両者に有意な差がないことが分かった。

PJI は TKA 術後の重大合併症であり、予防がきわめて重要であることから、麻酔方法がリスクファクターとなるか否かは、整形外科医にとって非常に重要なサーチクエスションである。今回は大規模データを用いて検討され、麻酔方法による PJI 発生頻度に差がないとことを証明された。本研究は周術期の医療安全の向上にも寄与する結果で、十分に学位論文に値する内容であると考えられる。

参 考 論 文

1. Sivelestat sodium and mortality in pneumonia patients requiring mechanical ventilation: propensity score analysis of a Japanese nationwide database.

Kishimoto M, Yamana H, Inoue S, Noda T, Myojin T, Matsui H, Matsui H and Imamura T.

Journal of anesthesia 2017 Jun;31(3):405-412.

以上、主論文に報告された研究成績は、参考論文とともに公衆衛生学の進歩に寄与するところが大きいと認める。

平成 30 年 11 月 13 日

学位審査委員長

運動器再建医学

教 授 田中康仁

学位審査委員

病態解析医学・医療教育学

教 授 藤本眞一

学位審査委員（指導教員）

公衆衛生学

教 授 今村知明